

イスラエル論・入門編

イスラエルについて学ぼう

～イスラエルの現在・過去・未来～



アウトライン

I. イスラエルの現在

II. イスラエルの過去

- ① 聖書の時代
- ② 聖書の後の時代
- ③ 近現代

III. イスラエルの未来

歴史の背後にある戦いの行く末

イスラエル論・入門編





I. イスラエルの現在

【イスラエルとハマスの衝突】

■ ハマスが千発以上のミサイルをイスラエルへ打ち込む。

→ 犠牲者には、アラブ人やタイ人も。

→ 1/4は、ガザ領内に着弾。

■ イスラエルがハマスの拠点をピンポイントで爆撃。

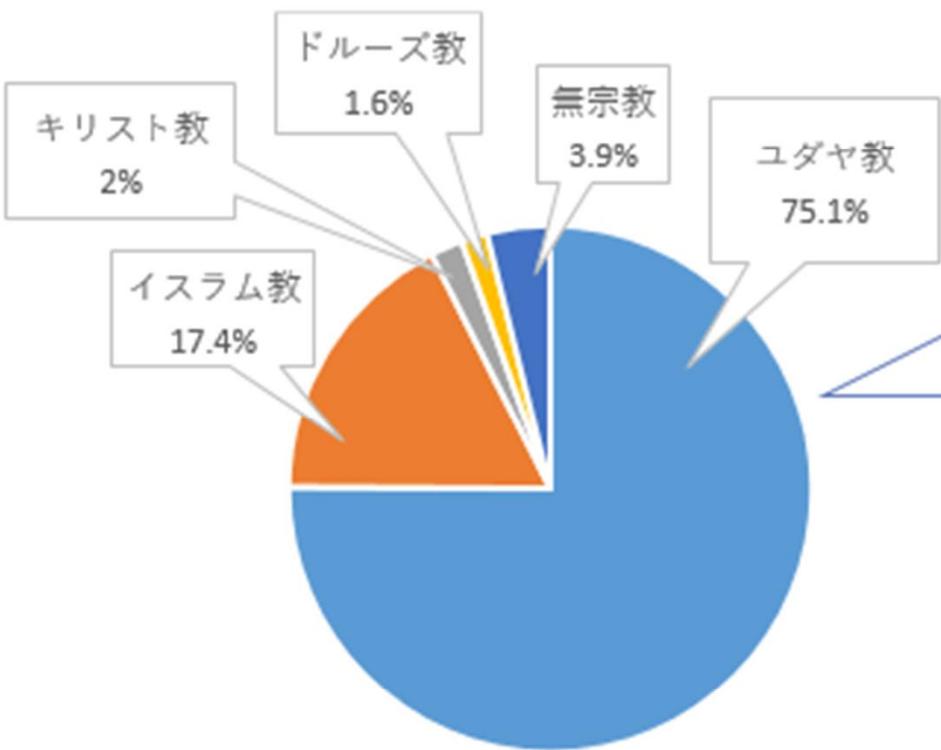
→ 事前に警告。

→ 多くの拠点が市街地にあり、幼稚園や病院に隣接。

■ 双方が停戦に合意。双方が勝利宣言。

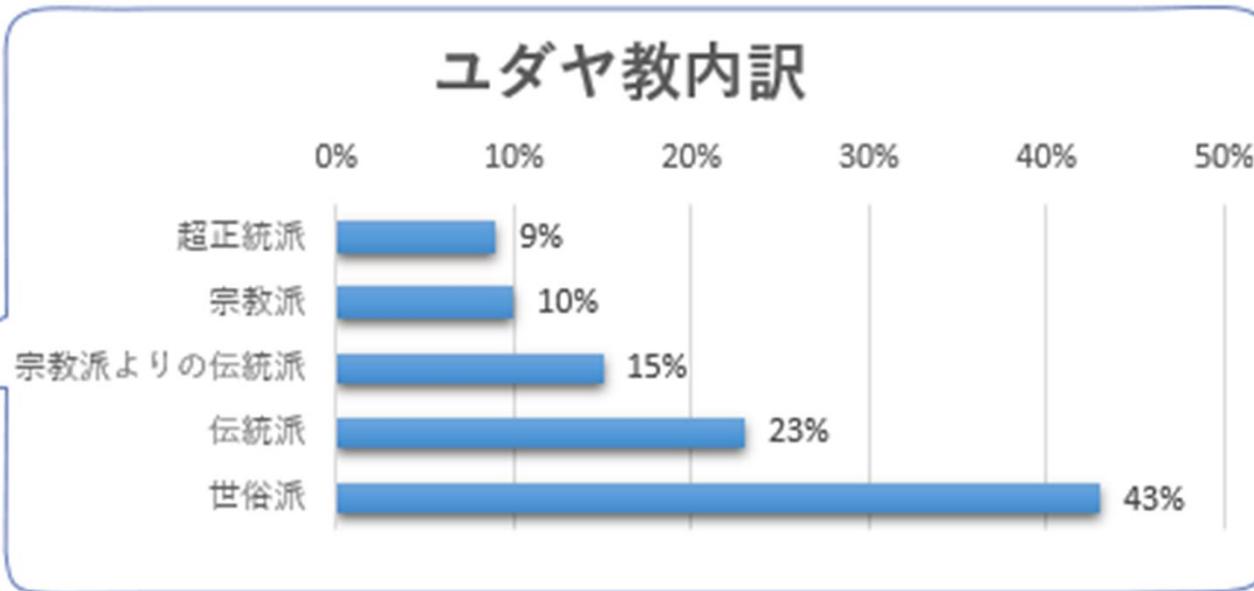
【人種と宗教のモザイクの国・イスラエル】

イスラエルの宗教分布



- ユダヤ教
- イスラム教
- キリスト教
- ドルーズ教
- 無宗教

ユダヤ教内訳



人口分布	ユダヤ人	74.90%
	アラブ人	20.70%
	他	4.40%
合計		8,463,500

【イスラエルとは？ 地理的多様さと豊かさ】

四国くらいの広さの領土に、

雪が降る高山があり、

豊かな穀倉地帯があり、

世界で最も低い低地があり、

広大な砂漠があり、

珊瑚礁の海がある。

雨は雨期(11~3月)のみ降る。

7か月降雨なしの乾燥地帯。

しかし、食料自給率は、ほぼ100%。

食料輸出額は、日本と同等。優れた農業技術。



【民族も主義主張も超多様なイスラエル】



- ユダヤ民族国家であり、同時に、多民族国家。
- 多様な価値観が混在する、
中東で唯一、言論の自由が認められた民主主義国家。
- 国会議員は、完全比例代表制。首相は、直接選挙で選出。
史上一度も、一党で過半数を占めたことがない!!
第一党の最初の仕事は、連立のための各党との折衝。
- ユダヤ人も、超正統派から、超世俗派までいれば、
欧州、米国、ロシア、中東、アフリカと、出身国も多様。

【世界中に派遣されるイスラエルの医療支援チーム】

■東北大震災では、海外から最初の医療支援チームとして駆けつけて、最後まで。

医師14名(内科, 小児科, 産婦人科など),
看護師7名, その他技師, 通訳など53名



最新の医療機器について菊田政務官に説明する隊員たち

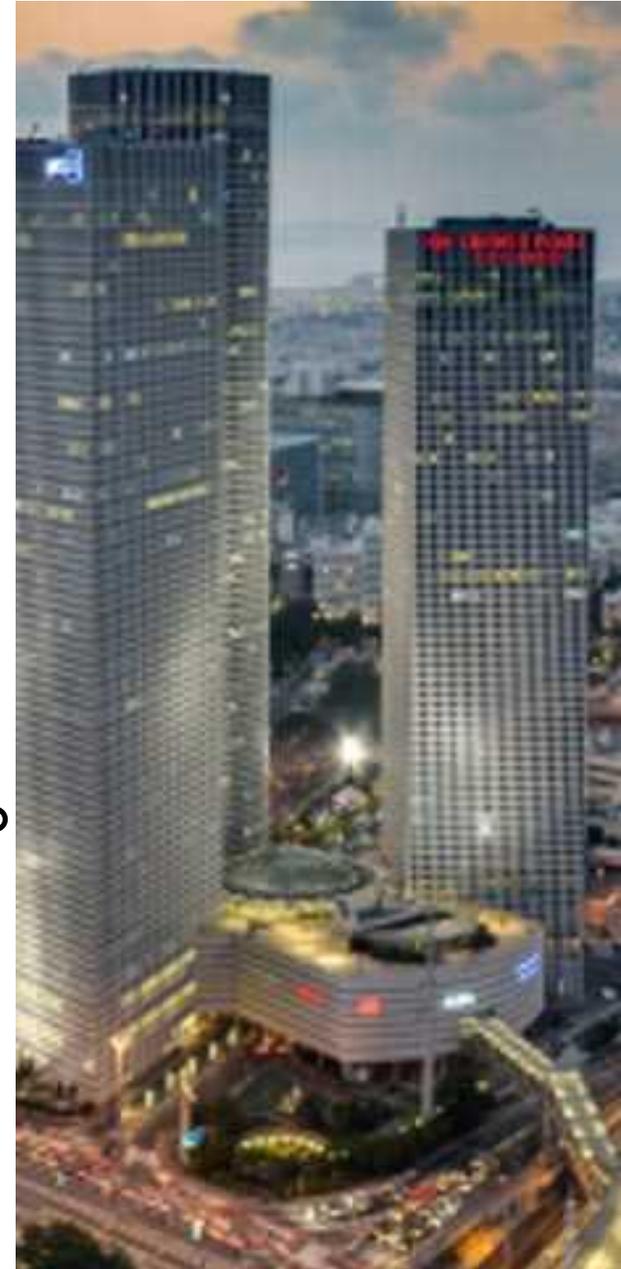
【世界の注目が集まるイスラエル】

■ 中東のシリコンバレー

IT先進国。数々のスタートアップ起業。
イノベーション創生地。

■ 国民の医療データも完全にデジタル管理。

➡ ワクチン接種で世界をリード。

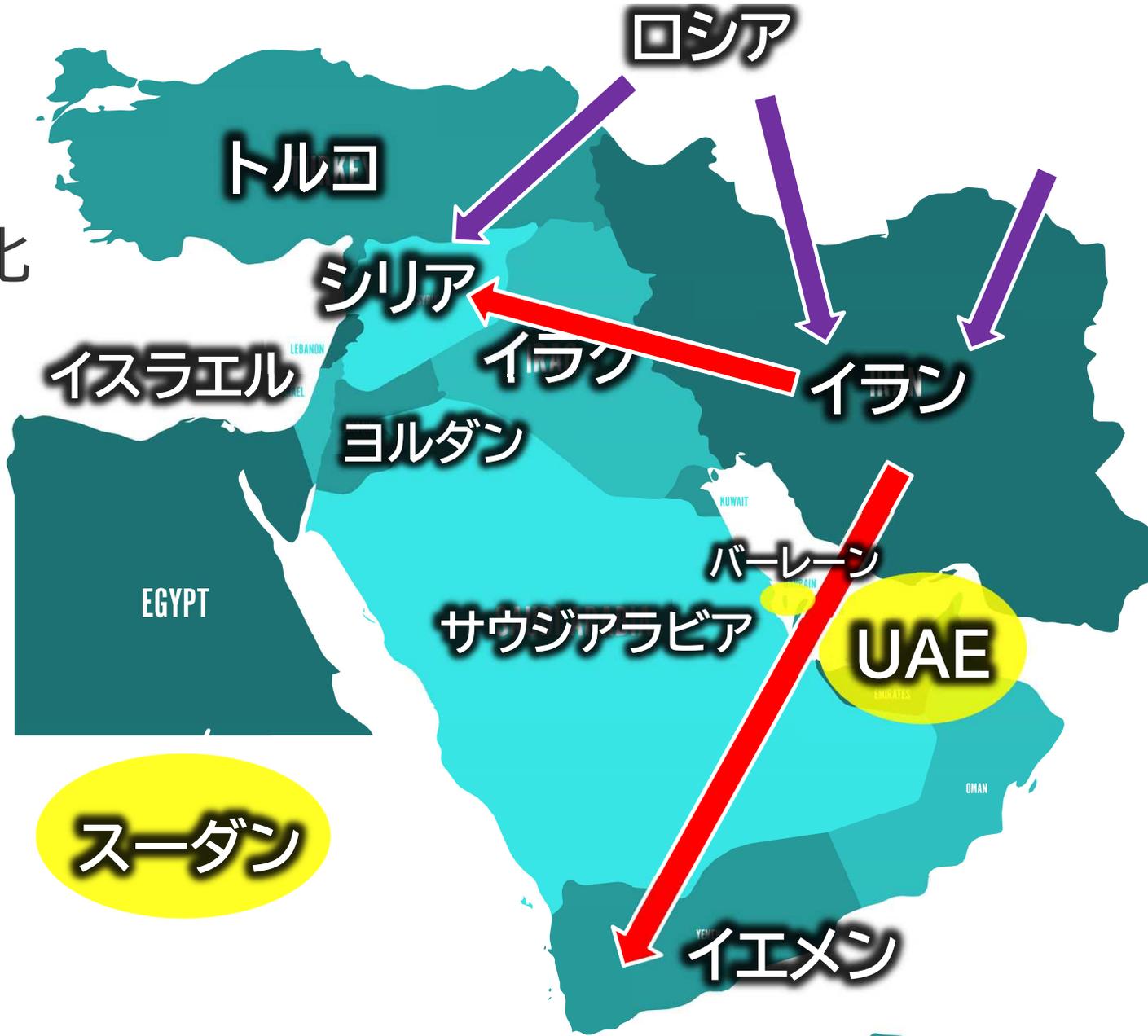


【激変する中東情勢】

アブラハム合意

イスラエルと国交正常化

- ・UAE
- ・バーレーン
- ・スーダン
- ・モロッコ …etc



【ハマスの実相】

- 草の根的なイスラム復興運動から生まれ、慈善事業、学校運営など、パレスチナの住民の支持を得ていく。
- 現在は、ガザ地域を実効支配。欧米各国、日本でテロ組織指定。
➡ ハマス憲章には、イスラエルの殲滅が明記。
- 国際的な援助物資や資金を収奪し、軍事武装。
地下トンネルを張り巡らし、学校や病院を出入り口に。
市街地の拠点から、ロケット砲を発射。住民を盾に。
指導者は豪邸に住み、子弟は海外留学。
- 被害者を出すことで、国際世論を煽り、イスラエルを非難。

【衝突の背景】

■ イスラム教における聖戦を忠実に実行しているハマス。
➡ 世界中のイスラム原理主義者の支持。

■ 背後にあるイスラム教の本質。聖戦(ジハード)。
イスラム教という梯子の一段目は慈善だが、
最上段は、聖戦という構造が。

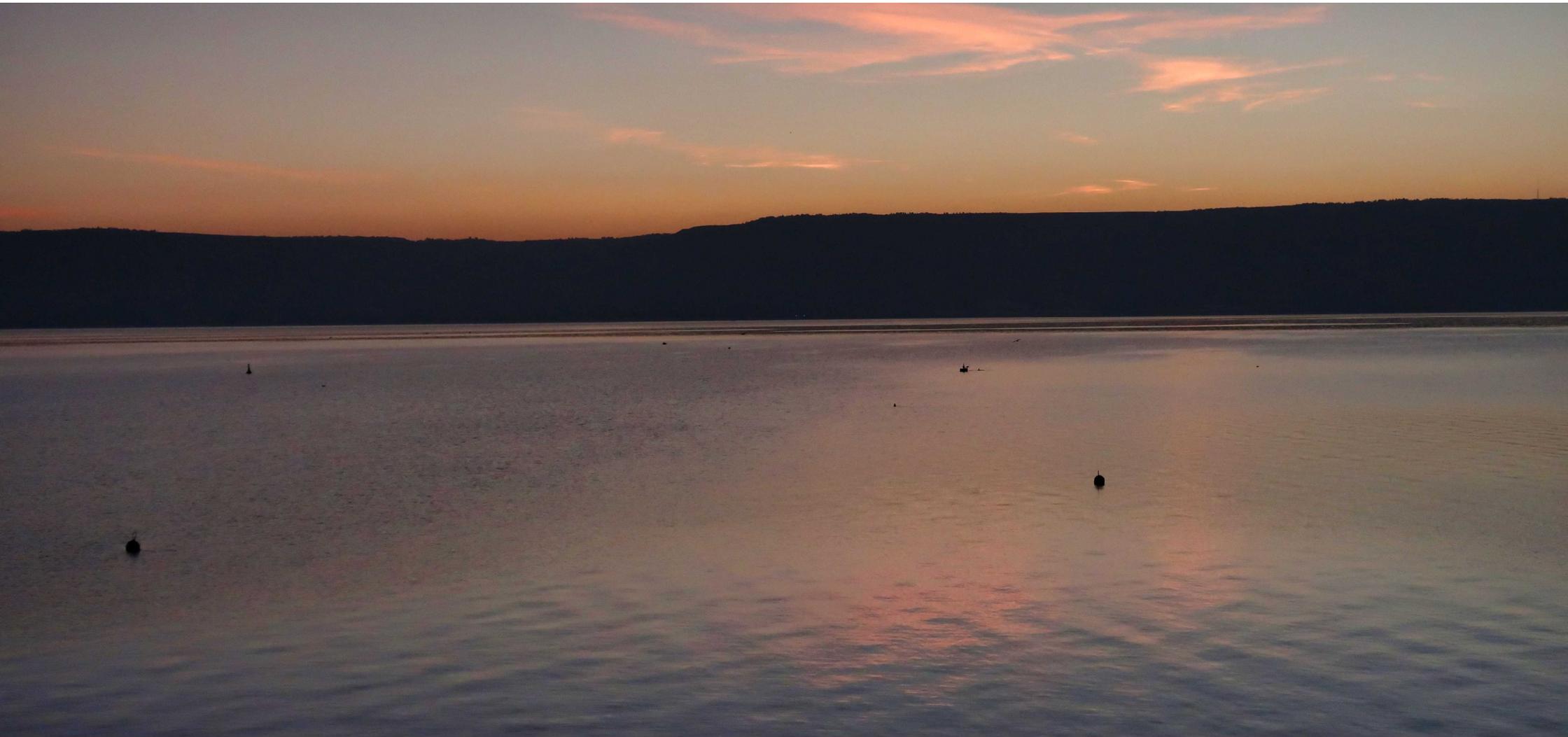
*「ハマスの息子」 モサブ・ハッサン・ユーセフ

*「イスラム教再考」 飯山陽

■ 日本の報道は、ガザの被害を強調し、イスラエルを
批難するハマスの主張に沿うものばかり。

なぜ、ここまで偏向しているのか？ 答えは聖書に！





Ⅱ. イスラエルの過去

① 聖書の時代



- 人は、神との約束を破り、罪を犯した。
- 人は神と、断絶した。
⇒それが、死。
- 神は、人類を滅びから救うため、メシアを送ると約束された。
- 人の良心も、人の国家も、神との平和をもたらすことはできなかった。

【神の人類救済計画とは？】

■ アブラハムという一人の人物を選び、
神自ら、一つの民族を育まれ、
その民族の子孫から、
救い主・メシアを送るということ。

*この民族こそ、神の民イスラエル

神の計画の中心が、イスラエル!!



【サタンの妨害・反ユダヤ主義の起源】

- 人をだまし、罪を犯させたのがサタン。
- 神に反逆し地に堕ちた大天使がサタン。
- 創造主である神には、かなわないので、神が愛する人間を破壊しようとする。
- サタンは、メシアの登場を防ぐため、常にイスラエルを滅ぼそうとしてきた。



【最初の反ユダヤ主義・エジプトの圧政】

■ イスラエルは、一時、エジプトに逃れ、400年間を、奴隷として過ごした。

■ 一大民族に成長したイスラエルを滅ぼそうとしたエジプト王(パロ)は、逆に、神に厳しく裁かれた。

■ イスラエルは、モーセをリーダーとして神に導かれ、エジプトから脱出し、約束の地へ向かった。



【祭司とされたイスラエル】

- 神は、シナイ山で栄光を表され、イスラエルに、「律法」を与えた。
- 律法は、神について教え、イスラエルを導く決まりだった。
- 神は、イスラエルに、人類を神にとりなす、仲介者、「祭司」としての役割を与えた。



イスラエルはやがて、約束の土地カナンに王国を建設。
エルサレムに神殿を築き、栄えた。



【イスラエルの背きと滅び】

- 繁栄は続かなかった。
イスラエルは、神に背き、
偶像を拝んだ。
- 厳しい神の裁きを受け、
バビロニアに滅ぼされた。
➔バビロン捕囚(BC586)
- イスラエルが、神に背き、
約束の地を追われることは、
律法に警告されていた。



【なぜ、この地なのか？】

ギリシャ
ローマ

アッシリア
バビロニア

イスラエル

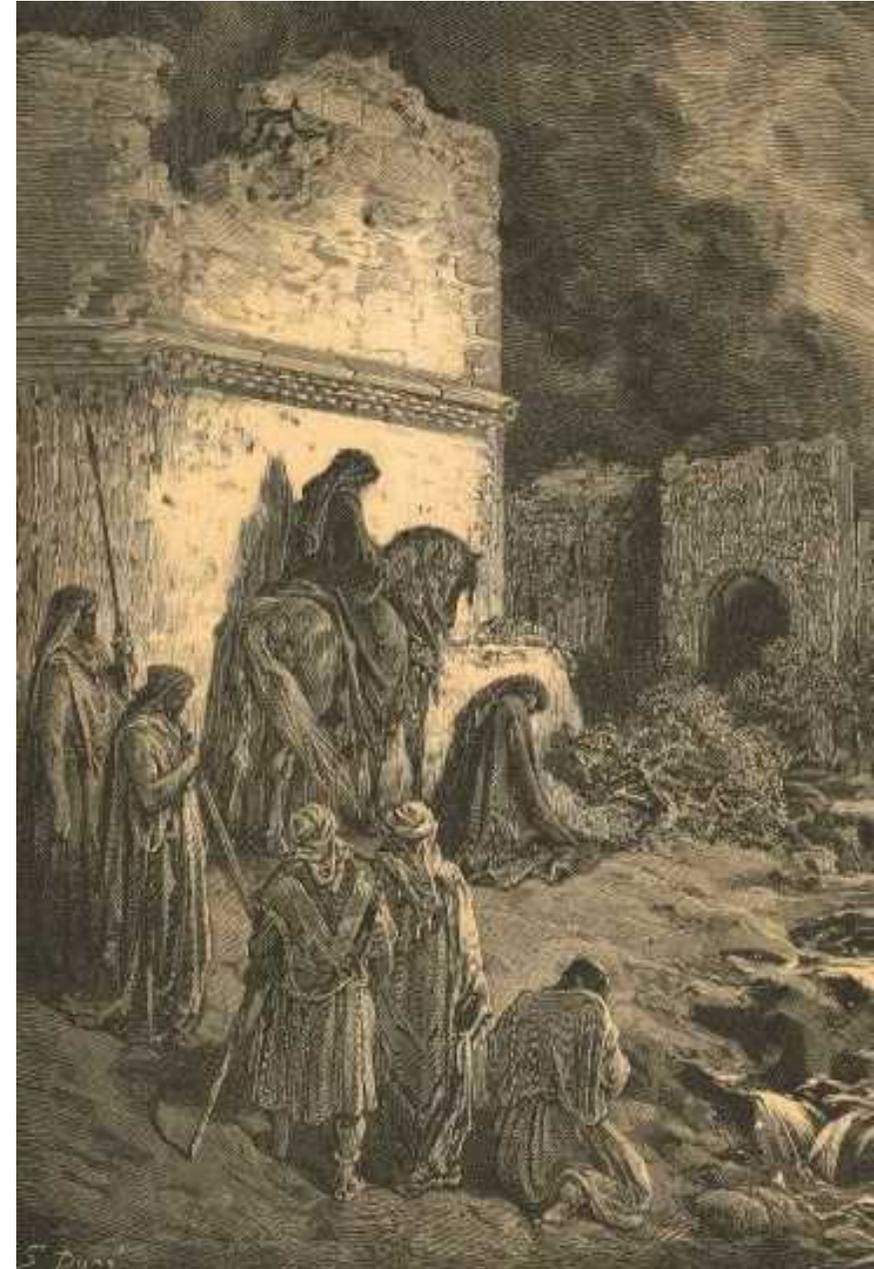
エジプト

様々な文明が重なり合う、世界の交差点

Tiles Courtesy of MapQuest
(c) OpenStreetMap contributors

【帰還と神殿の再建】

- バビロン捕囚から70年後、解放されたイスラエルは、荒れ果てたエルサレムに神殿を再建した。
- しかし、神殿に、神の栄光はなく、イスラエルの民の苦難は続いた。
- 移り変わる支配者
バビロニア ➡ ペルシャ
➡ ギリシャ ➡ ローマ



【メシアの登場】

- 数百年の後、
バプテスマのヨハネが現れ、
メシア到来が間近に迫ったことを伝え、
イスラエルに悔い改めを促した。
- そして、ついに現れたメシアが、
ナザレのイエスだった。



【メシアの活動】

- イエスは、30歳からメシアとしての働きを始めた。
- 重い病気や障害を癒し、数々の奇跡を行い、律法を正しく解き明かして、メシアの証拠をイスラエルの人々に見せられた。

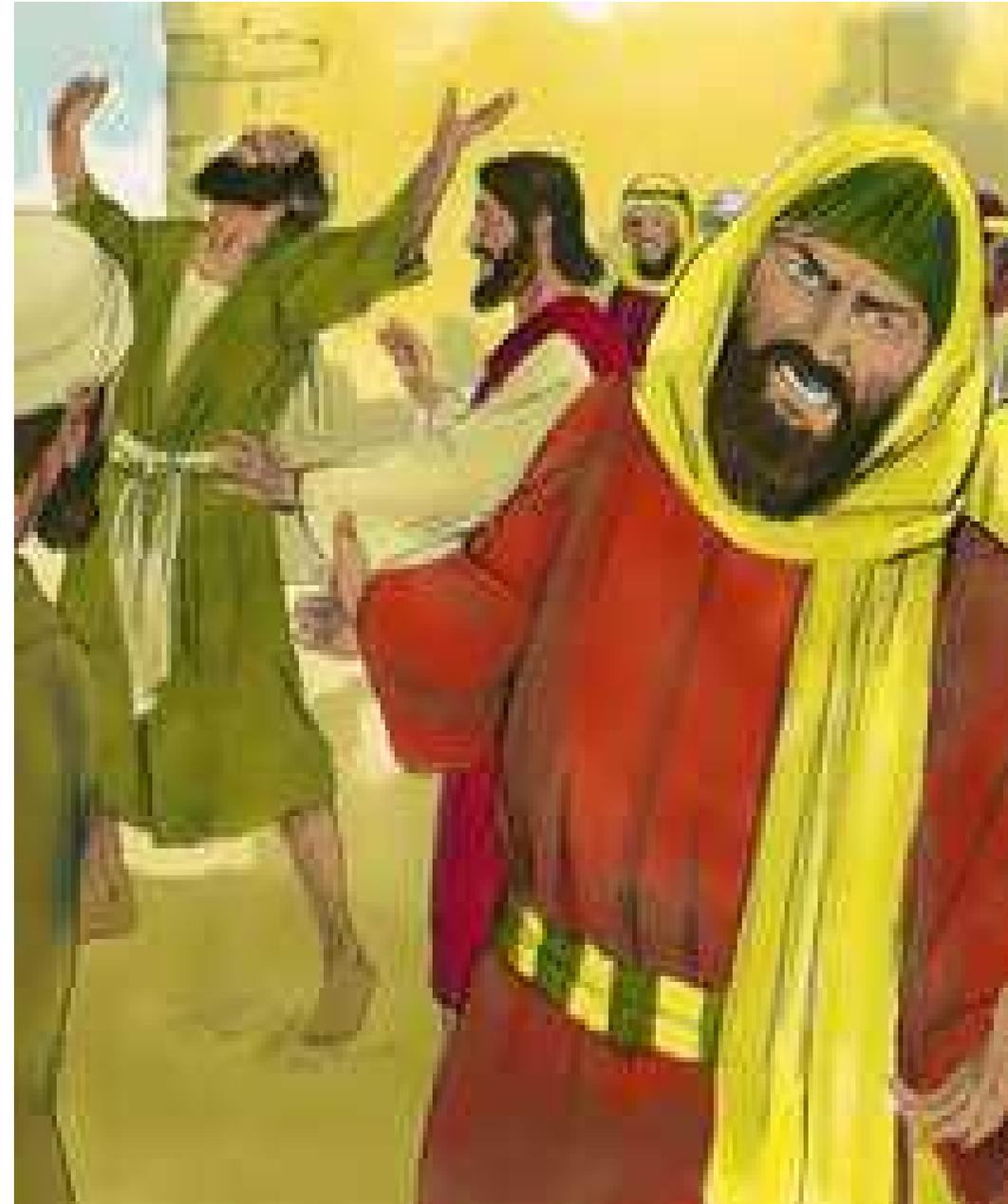


【メシアを拒んだイスラエル】

■ 数々の証拠にも関わらず、イスラエルの宗教指導者は、イエスはサタンの方で奇跡を行っていると結論づけた。

■ 神が約束され、送られたメシアをイスラエルが公に拒んだ時、この時代のイスラエルへの厳しい裁きが確定した。

➡エルサレム陥落(AD70年)



【十字架にかけられたメシア】

- イエスは、ユダヤ議会によって捕らえられ、神への冒瀆罪を言い渡された。
- 支配者のローマに引き渡され、十字架にかけられた。
- 死んで葬られたイエスは、三日目に復活した。



【教会の誕生・迫害】

■ イエスが復活し、昇天した後、
五旬祭(ペンテコステ)に、
弟子たちに聖霊がくだった。

■ こうして教会が誕生した。

■ ユダヤ人の主流派は、
イエスの弟子たちをも、
厳しく迫害した。





Ⅱ. イスラエルの過去

②聖書の後の時代 1~19世紀



70年。ローマによって、エルサレムは陥落。
神殿は破壊し尽くされた。イエスの預言が成就した。
キリスト者は、イエスの警告を覚えて脱出。難を逃れた。

神殿を失ったユダヤ人は、離散の民となり、
世界中へ散らばっていった。

イスラエルの歴史 ローマ帝国～イスラム王朝

日本

1～4世紀

ローマ帝国時代

古墳時代

4～7世紀

東ローマ帝国時代(ビザンチン時代)

飛鳥時代

7～11世紀

ムスリムによる支配
691年 岩のドーム建設



奈良時代
平安時代

12～13世紀

十字軍による支配



鎌倉時代

13～16世紀

マムルーク王朝



室町時代
～江戸時代

16～19世紀

オスマントルコ帝国時代

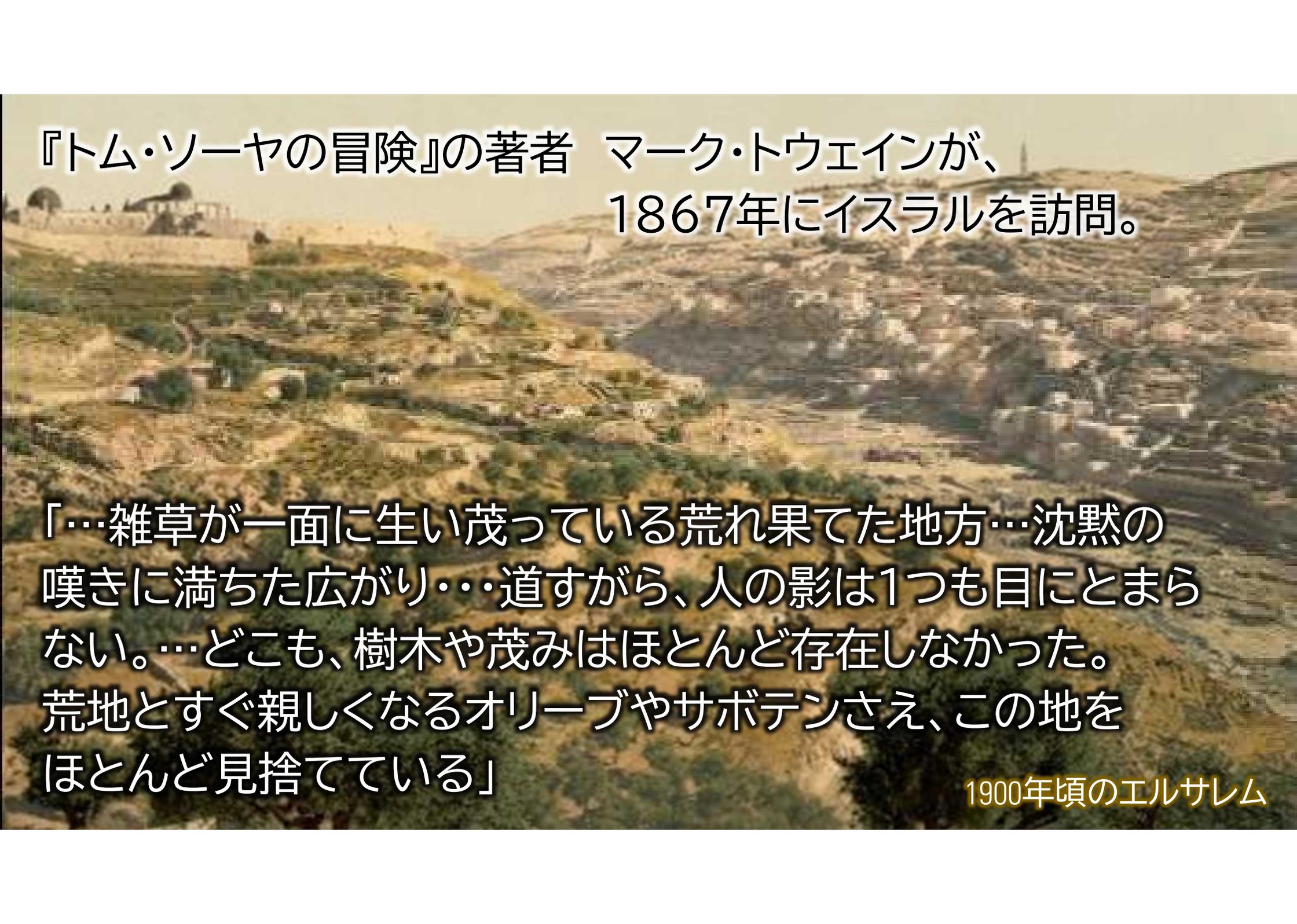
江戸時代
～明治時代



Ⅱ. イスラエルの過去 ③近現代 19～20世紀



19世紀のエルサレム



『トム・ソーヤの冒険』の著者 マーク・トウェインが、
1867年にイスラエルを訪問。

「…雑草が一面に生い茂っている荒れ果てた地方…沈黙の
嘆きに満ちた広がり…道すがら、人の影は1つも目にとまら
ない。…どこも、樹木や茂みはほとんど存在しなかった。
荒地とすぐ親しくなるオリーブやサボテンさえ、この地を
ほとんど見捨てている」

1900年頃のエルサレム

【旧約聖書の預言】 申命記 29:22,25

後の世代、あなたがたの後に起こるあなたがたの子孫や、遠くの地から来る外国人は、この地の災害と【主】がこの地に起こされた病気を見て、言うであろう。

「なぜ、【主】はこの地に、このようなことをしたのか。この激しい燃える怒りは、なぜなのだ。」

人々は言おう。

「それは、彼らの父祖の神、【主】が彼らをエジプトの地から連れ出して、彼らと結ばれた契約を、彼らが捨て、...ほかの神々に行って仕え、それを拝んだからである。」

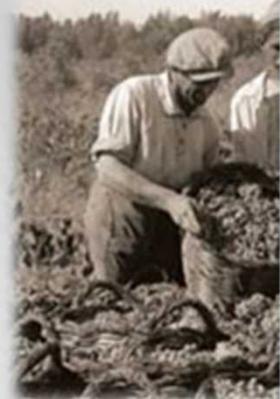
【長い異邦人の支配の果てに】 I

- ローマによるエルサレム陥落以降、この地に独立国家が誕生したことは一度もなかった。
- オスマン王朝(16～19世紀)は、木の本数で課税額を決めた。不在地主の命令で、木々は抜かれ、マラリヤの蔓延する湿地帯と不毛の荒野が広がっていた。
- この地に住むのは、遊牧民と、点在する古い町の住民、さびれた古都エルサレムに住むユダヤ人、アラブ人クリスチャンだけだった。



【19世紀末・イスラエルへの移民の始まり】

世界的移民の時代。東欧からのユダヤ人移民が中心。
トルコの不在地主から土地を購入。荒野、湿地を開拓。



英国による支配の時代

1917年

第一次世界大戦後、英国の支配下に。
400年間のオスマン帝国時代が終わる。
バルフォア宣言。

1920年

民族評議会が設立。

1936年

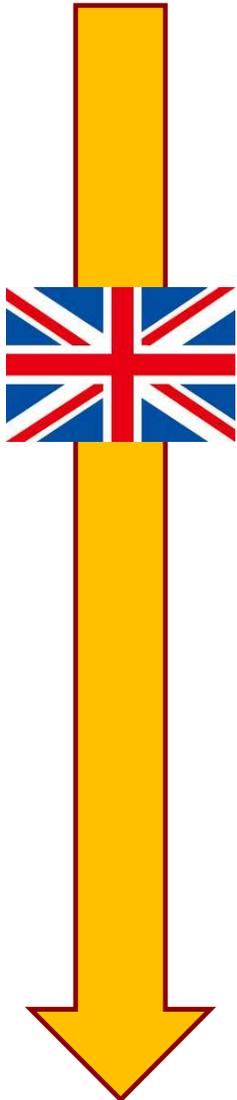
アラブの反ユダヤ暴動が激化。

1939年

英国が、ユダヤ人移民を厳しく制限。

1939年～

第二次世界大戦。パレスチナはナチス支持。
ホロコーストで、ユダヤ人600万人が虐殺。
英国の厳しいユダヤ人移民制限により犠牲者が拡大。
※パレスチナ指導者ハッジ・アミン・アルフセイニは、
ヒットラーの“最終解決”に、賛同、協力。
戦後は、パレスチナ評議会の初代議長に選出。



イスラエルの近現代史

1948年

国連決議を受け、ユダヤ人国家設立

- ・直後に、アラブ5カ国が進撃。
「ユダヤ人に切って一枚の土地も与えるな」
- ・圧倒的戦力差も、イスラエルが勝利。
- ・中東各地でのユダヤ人と、パレスチナのムスリムの双方に数十万人の難民が発生。
 - ➡イスラエルは同胞の難民を必死に迎え入れた。
一方のパレスチナ難民は、周辺国に拒まれ、いまだに難民のまま。



1967年

第三次中東戦争。

- ・東エルサレム及び神殿の丘をイスラエルが占領。





Ⅲ. 歴史の背後にある戦いの行く末

ローマによるエルサレム陥落

【反ユダヤ主義の歴史】

- エジプト王パロによるイスラエル男子殺害命令。
- バビロニアによるエルサレム陥落・バビロン捕囚。
- ローマによるエルサレム陥落。
- 世界各地でのユダヤ人迫害
 - ナチスのホロコースト、ロシアのポグロム、
 - パレスチナによるテロ...etc

Q:なぜ、イスラエルは、こんなにも憎まれるのか？

背後に働いているのは、神に敵対するサタン

【サタンが、イスラエルを攻撃する理由】

★神の世界回復、人類救済の計画の中心がイスラエル!!

■イスラエルから、メシアが誕生する。

⇒イスラエルを滅ぼし、メシア誕生を阻止しようとした!!

■イスラエルのメシア・イエスの十字架の贖いが、サタンに勝利する。

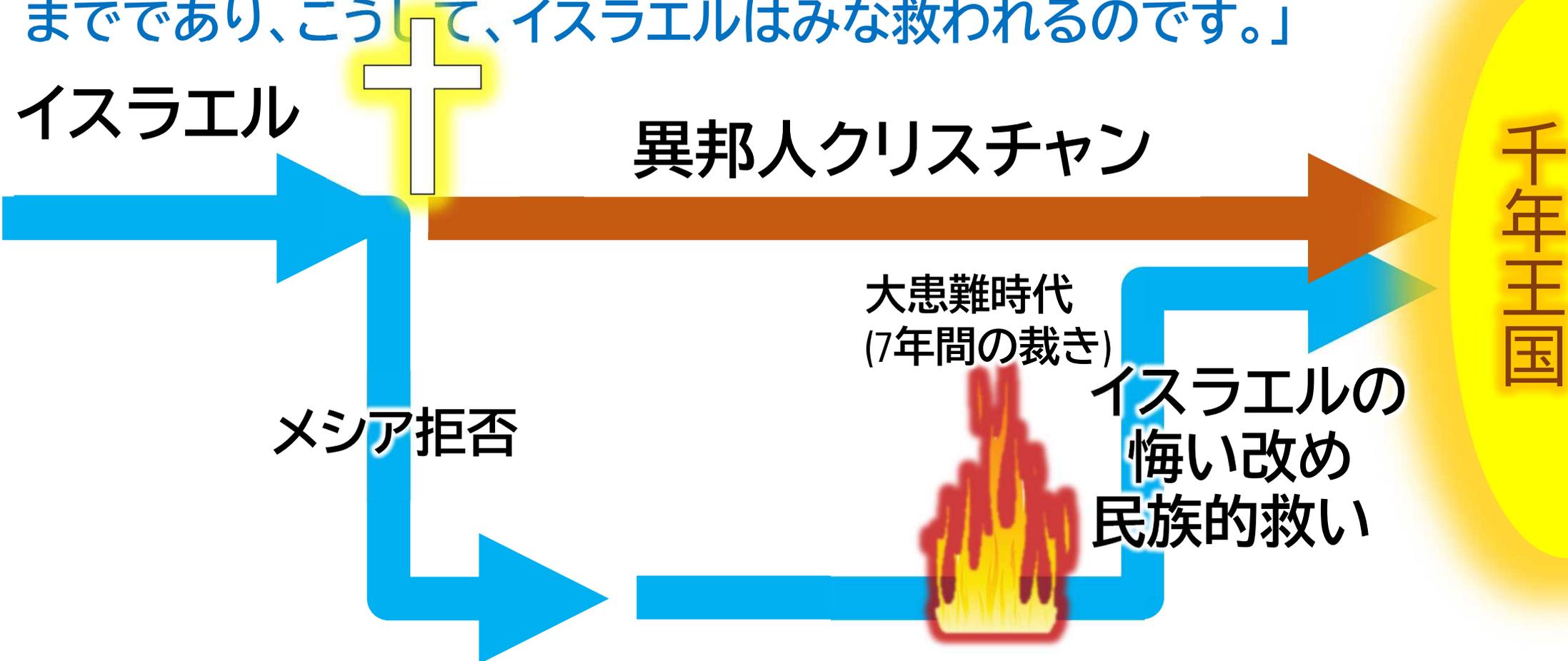
⇒イエスの十字架を妨害!! ... 荒野の誘惑、ユダの裏切りetc

■イスラエルが悔い改めたとき、メシアが再臨し、悪を裁く。

⇒イスラエルの悔い改めを邪魔し、イスラエルを滅ぼそうと!!

【イスラエルに対する神の救いの計画】 ロマ11:25～26

「イスラエル人の一部が頑なになったのは異邦人の満ちる時が来るまでであり、こうして、イスラエルはみな救われるのです。」



【神の計画・これから起きること】

携挙は、いつ起こるか分からない

①世界大戦
(ホロコースト)

1914~

地震の激増

②イスラエル建国
(不信仰なままの帰還)

1948

③エルサレム支配
(旧市街占領)

1967

④北方からの侵略
(イスラエルの表面的な平和と繁栄
世界中で募る敵対心)

⑤世界統治機構

大患難時代
(7年間の裁き)

⑥反キリストと
平和条約

イスラエルの回心
キリストの再臨

千年王国



【不信仰なままの第一の帰還】 ゼパニヤ2:1~2

「ともに集まれ、集まれ。恥知らずの国民よ。* 御定めが行われて、その日が粃殻のように過ぎ去らないうちに。

【主】の燃える怒り*が、まだあなたがたを襲わないうちに。

【主】の怒りの日*が、まだあなたがたを襲わないうちに。」

*不信仰なままのイスラエルの帰還を示す。

➡近代イスラエル建国の立役者の多くは社会主義者。

現在のイスラエルでも無神論者が最も多い。

*主の燃える怒り、主の怒りの日 ...大患難時代のこと

主の怒りの日は、第一に、イスラエルへの裁きの時。



【信仰を持つての最終的帰還】 イザヤ11:10～

その日になると、**エッサイの根***はもろもろの民の旗として立ち、国々は**彼**を求め、**彼**のとどまるところは栄光に輝く。その日、**主は再び御手を伸ばし***、ご自分の民の残りの者を買取られる。彼らは、アッシリア、エジプト、パテロス、クシュ、エラム、シンアル、ハマテ、海の島々に残っている者たちである。主は国々のために旗を揚げ、イスラエルの散らされた者を取り集め、ユダの追い散らされた者を地の四隅から集められる。

***エッサイの根** ...メシア。再臨される主イエス。

***再臨された主イエスが**、すべてのイスラエルの民を世界中から、再建されたエルサレムに**集められる**。



【メシアがもたらす平和の結末】 イザヤ19:23～25

その日、エジプトからアッシリアへの大路ができ、アッシリア人はエジプトに、エジプト人はアッシリアに行き、エジプト人はアッシリア人とともに主に仕える。

その日、イスラエルはエジプトとアッシリアと並ぶ第三のものとなり、大地の真ん中で祝福を受ける。

万軍の【主】は祝福して言われる。「わたしの民エジプト、わたしの手で造ったアッシリア、わたしのゆずりの民イスラエルに祝福があるように。」

- イスラエルを苦しめた象徴的存在、エジプトとアッシリア。この三者の間に、メシアが永遠の平和を立てられる。



【聖書から、落ち着いて、今の時代を見つめよう】

「黙示録7:1 その後、私は四人の御使いを見た。彼らは地の四隅に立ち、地の四方の風をしっかりと押さえて、地にも海にもどんな木にも吹きつけないようにしていた。」

■大患難時代前半の記述。最終的な裁きの災いをとどめる天使の姿。

■今の時代、悪の力は神が制限され、最悪の災いは止められている。

張り詰めた綱引きは、携拳を引き金に、ぱつんと切れる。

携拳後、あっという間に、世界は終末になだれ込んで行くのだろう。

【聖書の約束に立ち、いつでも携拳に備えていよう】

- イスラエルは、コロナ禍をいち早く脱出しつつあるように、今後、世界で影響量を増していこう。
- 一方、反ユダヤ主義も、世界中で増していこう。
- 今起こっていることは、当然起こると、主が告げられたこと。

しかし、福音を信じた者は、最悪の大患難から携拳によって守られる。

「I テサ5:3~4 人々が「平和だ、安全だ」と言っているとき、妊婦に産みの苦しみが臨むように、突然の破滅が彼らを襲います。それを逃れることは決してできません。しかし、兄弟たち。あなたがたは暗闇の中にいないので、その日が盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。」

【この時代の信仰者の使命を確認しよう】

- 主イエス・キリストは、私たちの罪のため、十字架で死に、葬られ、復活された。この救いの福音を信じ、堅く握りしめよう。
- 福音を告げ、聖書を解き明かしていこう。主イエスは、愛する者を御許に挙げられ、イスラエルを裁き、悔い改めに導かれ、再臨される。
- 聖書を学び、味わい尽くし、祝福を受けよう。イスラエルにねたみを起こさせるほどに。ユダヤ人の悔い改めと救いを祈ろう。

真実の平和は、ただ、再臨の主イエスによってもたらされる!!

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

主イエスは、私たちを引き上げ、大患難(だいかんなん)を 逃れさせて
くださいます。

平安の内に、与えられた使命に遣(つか)わしてください。

福音を告げ、み言葉を学び、よろこび、

イスラエルにねたみをおこさせ、

彼らを真実の救いに導くために、この身を用いてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」



バイブルスタディ

★次回予告：2021年6月15日(火) 午前10時より

「ヤコブの手紙 2章」

★Zoomでの分かち合いのコーナーも!!

11時15分くらいから、分かち合いの時間を持ちます。

★今後の予定：6/29(火), 7/13(火)

分かち合いに参加しませんか？

10分ほど休憩した後、分かち合いをします。
どなたでもご参加ください。ご質問も、こちらでどうぞ♪

ZoomID : <https://us02web.zoom.us/j/82429990304>

※スマホ、タブレットの方は、ZOOMアプリで、
末尾の11桁の番号を入力!! ➡ **82429990304**

※開始前に、このライブ配信は、いったん閉じますので、
IDのコピー、メモをお忘れなく!!